

2023年1月17日

剣友会会長 野村秀明

発行責任者 藤原 勝

1. 年頭の会長ご挨拶

コロナ禍、3年越え・・・ but 「ものかは！」

剣友会々長 野村 秀明(昭和55年卒)

2019年末、医事新報の片隅に載った“中国での原因不明の肺炎“が、その後これ程まで世界を混乱に陥れるとは、まったく想像できませんでした。20世紀後半に勃発し、世界的なパンデミックになるかと危惧されたエイズや新型インフルエンザ、さらにSARS、MERSも実はそれほどの世界的脅威には至らず済みました。今回も、まあその類であろうと当初予想しましたが、この新型コロナは実はちょっと話が違いました・・・

人類数千年に及ぶ長い歴史の中で、天然痘はインカ帝国やアステカ文明を滅ぼし、中世ではペストが欧州人口の1/3を死に至らしめました。近く100年前には、スペイン風邪が、全世界中に5億人の罹患者をもたらしました。今回の新型コロナ感染は、これらに続くメガ感染に至る可能性がある、というより、もうすでにそうなっています・・・

本邦でも、感染の波は幾度となく押し寄せ、昨年末以来の第8波は、いままでの襲撃を凌駕するものとなりつつあります。小生の勤務する病院や老人施設でも、院内クラスターが何度となく発生し、今後の発生状況に戦々恐々としているのが現状です(写真)。



世間では、“With Corona”と言われだしたものの、有効な予防、治療法も確立しない今の状況では、疾患と共存・共生するという本来的な意味合いのwith coronaとは未だ程遠い。しかし、そんな中でも、今を生きる我々は、その終焉をめざしてとにかく日常生活を紡いでいか

ねばなりません。「コロナ、ものかは！」と念じつつ・・・

さて、昨年の「剣友」にて、告知させていただきましたが、今年は、神戸大学剣友会（同窓会）創立100周年にあたり、4月に、祝賀会を道場、および六甲台学生食堂（カフェテラス）にて行うことを企画しております。しかし、第8波の先行きが見えず、コロナの第2類感染症指定が解除されないままでは、一同に会した祝宴もおぼつきません。昨年末に剣友会幹部でZoom会議行い「とりあえず、この状況では、4月の開催は延期せざると得ない」という結論に達しました。今後、夏（7月か8月）にするのか、または来春まで1年延期するのかは、情勢を見て判断せざるを得ません。会員各位におかれましては、今しばらく決定をお待ちいただくようお願いして、2023年メルマガ巻頭語に替えさせていただきます。

2. 学生の状況

（1）高校招待試合（学生情報発信 松田駿汰さん）

新年あけましておめでとうございます。我々剣道部も新年の目標をそれぞれが掲げ、精進してまいります。今年もよろしくおねがい致します。

12月25日に高校招待試合がありました。コロナ禍があけて初めての高校招待試合だったにも関わらず、36校の高校に参加して頂きました。

<第8回神戸大学剣道部高校招待試合結果>

男子優勝：関西学院高等部 準優勝：膳所 第三位：加古川西・高津
女子優勝：大垣北 準優勝：関西学院高等部 第三位：三国丘・御影



▲男子優勝 関西学院高校



▲女子優勝 大垣北高校

最後になりましたが、円滑な大会運営にご協力頂きました、役員、審判の先輩方、ありがとうございます。来年も開催できるようお力添えいただけると幸いです

3. OBの状況

(1) 高校招待試合の卒業生所感 藤 智史 (ふじ さとし 平成7年卒)



▲開会式の様子。剣道部部長の藤先生がご挨拶をされています。(写真提供：松田駿汰さん)

あけましておめでとうございます。

令和4年12月25日、高校招待試合が3年ぶりに開催されました。部長の藤先生をはじめ皆様のご尽力、ありがとうございました。自ら考え行動する学生達の姿勢が大会を通じて見られ、頼もしく思いました。試合は、つばぜり合いのルール変更もあり、一足一刀の間合から打ち込む豪快な技が増えた印象を受けました。

一方、閉会式で内濱先生が言われた「目立って悪い癖はなくともまだ厳しさに欠ける。また、提刀、帯刀、抜刀、蹲踞、納刀といった所作の細かさ、正しさを大切にされたい」とのお言葉は、私たちも肝に銘じるべきと思います。

「高校生の皆さんの将来の選択肢として神大剣道部を提示する」という大会の趣旨と、剣友会からのご依頼に沿い、私の気づきをまとめました。失礼かもしれませんが、少しでも良くなって欲しい思いですので、ご容赦下さい。

◎開催の時期

冬の開催は「神戸は寒い」「神大は辛い」といった間違っただ印象となるのが心配です。せめてまだ陽があり少しでも暖かい時間に切り上げ、さわやかに帰ってもらう工夫があつて良いのではと思います。また、他の予定や会場の制約もあり難しいのですが、できれば良い季節に実施し、良い印象を持ってもらいたいです。合同稽古を実施する場合、季節が良ければ剣道着と袴で審判ができ、円滑な進行にも寄与します。

◎大会の進行

多くの高校生に集まって欲しいこととは相反しますが、試合数が多くはないでしょうか。決勝トーナメント進出を各リーグ1校にする、決勝トーナメントの試合時間を3分にする、

さらには昼休みも短めにするなどで進行を早め、その分を合同稽古に充て、かつ早く終了するほうが良いと思います。

◎合同稽古の実施

コロナの下では難しいかもしれませんが、私が高校生のころに参加した阪大と京大の招待試合の思い出からも、神戸大の名札を着けた現役部員が元太刀を務める合同稽古は、文武両道を目指す高校生には印象深いと思います。各校の全部員が参加できますし、稽古後には神戸で剣道やろう、全日本に行こう、という話も出るでしょう。その点では今回、閉会式での主将・稗田君の言葉は、高校生に響いたのではないのでしょうか。稽古後ならなお良かったと思います。私たち卒業生は脇役です（笑）。

◎パンフレットへの艱貞堂（六甲台道場）稽古風景の写真掲載

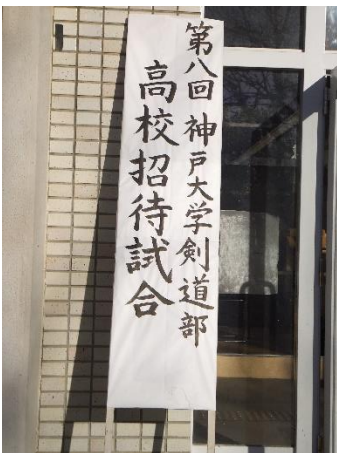
会場の都合上、私たちの道場を見てももらえないのは仕方ない一方で、参加校の一部は部員不足に悩んでいます。つまり、あの道場に約30名の部員が集う写真だけでも、心が動く高校生がいるのではないのでしょうか。私は高3の夏、工学部と道場を見に神戸を訪ねました。稽古は終わっており静かでしたが、重厚な道場の窓越しに剣道具が見えたときの若い興奮が記憶に残ります。似たことを思う高校生は今もいるのではないのでしょうか。

◎学生審判の採用

内濱先生・高梨先生のご了解が前提ですが、実力のある学生なら問題ないでしょうし、経験を積むにも良い機会です。もちろん主審もやるべきだと思います。各校の先生方には、学生の学びの場でもあることにあらかじめ理解を求めるとともに、開会式で藤先生からお話いただければなお良いと思います。

◎学生が前面に立つ演出

大会には卒業生の協力が重要とはいえ、少々目立ちすぎかもしれません（笑）。例えば、内濱先生・高梨先生にご了解いただけるなら、男女決勝戦の主審は現役の男女主将にそれぞれ務めさせ、卒業生は敢えて副審に回って若い主審をサポートする、そんな演出があっても良いのではないのでしょうか。招待試合ならではの風景になると思います。



(2) 剣友会幹事会のご報告

①第8回高校招待試合

高校招待試合が12月25日(日)、3年ぶりに開催されました。今回はコロナ感染対策でコートが8コートから6コートに減らすため、愛知、広島、岡山などを除いた京阪神の高校を中心に招待状をお送りしました。結果的に、男子26校、女子23校に参加いただきました(2校は当日欠席)。当日は、年末・クリスマスのお忙しい時期に、28名の先輩方に審判の労をおとりいただきました。改めて御礼を申し上げます。

②年会費納入のお願い

今年度は、三商大戦(神戸開催)と高校招待試合が3年ぶりに開催されるなど、ほぼ例年通りの予算執行となっています。しかし、年会費の方は12月末段階で約190万円と予算を40万円下回る状況です。各学年幹事の皆様にはメールで会費納入者リストをお送りし、同期に皆さんへのお声かけをお願いしておりますが、会計状況をご理解の上、会費納入にご協力をお願いいたします。

三井住友銀行 船場支店 普通 1991610 神戸大学剣友会
ゆうちょ銀行 14380-6229761 神戸大学剣友会

(3) 今後の予定

①第9回全日本学連剣友剣道大会

1月22日(日)にBumB東京スポーツ館において、表記の大会が開催されます。

神戸大学剣友会からは、関西の大会で男子3部ベスト4に入ったチームが、男子熟年チームとしてエントリーしています(先鋒:阿部哲生先輩、中堅:根木祐二先輩、大将:中島則雄先輩)。なお、試合は無観客で実施されます。

②剣友会新年会

1月23日(月)18時30分 於:神戸大学大阪クラブ(大阪凌霜クラブ、大阪駅前第1ビル11階)今回は着席・個食となります。

③東京支部新年会

1月30日(月)18時30分 於:神戸大学東京六甲クラブ(帝国劇場地下)3年ぶりの新年会です。17時30分から開場していますので早めに来ていただいても構いません。

4. 編集後記

◎メルマガ新年号は野村会長のご挨拶から始まりました。早く平常に戻って欲しいですね。

◎12月の高校招待試合は意欲があり優秀な新入生を獲得する重要なイベントです。今回、盛り上がって良かったですね。学生諸君、諸先生、審判の労を取っていただいたOBの皆様、お疲れさまでした。OBの藤さんの提案もなるほどと思われま。

◎今年の干支は癸卯(みずのと・う)です。新たな生命を意味する癸と飛躍を象徴する卯で、努力が実を結び成長することを表しています。剣友会も今年100年を迎えますが、新たな一歩を踏み出す年になりますように。
(編集責任者 藤原 勝)